

# 東大野球部

## メールマガジン



### Vol.107

### いあつわて

朝夕冷え込む季節になりましたが、皆様いかがお過ごしでしょうか。

先日秋季リーグ戦・新人戦を終え、これで今年の公式戦の全日程が終了致しました。チームの目標であった勝利を今シーズンも果たすことが出来ず、大変悔しい結果となりました。来季こそは応援して下さる皆様に勝利をお見せできるよう、この冬チーム一丸となって励んで参ります。

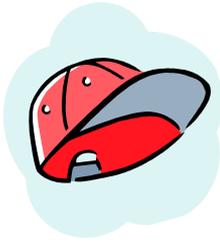
今シーズンもたくさんの方の応援をありがとうございます。今後とも東京大学野球部をどうぞ宜しくお願い致します。

## 今後の日程

### 〈秋季オープン戦〉

11月16日 10:30～ vs 城西大学@城西大学G

13:00～ vs 城西大学@城西大学G



## 下級生特集!

今回は「下級生特集」と題して、11月5日に行われました秋季新人戦と、1年生選手のこの冬に向けた意気込みを特集致します。

## ▽秋季新人戦1回戦 対立教大学

立大	000	001	000	1	
東大	000	000	000	000	0

(立) ○藤田—高田

(東) ●三木、山本俊—喜入

□高田(立)

立教大学との新人戦1回戦では、先発した三木が8回1失点、続く山本俊も9回を無失点に抑える好投を見せた。しかし、打線が3安打と投手の力投に応えることが出来ず、零封負けを喫した。

## 〜新人戦を振り返って〜

### 桐生 祥汰(2年・内野手・西)

春に続いて立教大学との対戦でしたが、投手の力投に打撃戦が応えることができず、1対0での負けという結果になってしまいました。僕自身も終盤の大事な場面で自分の仕事を果たせず、悔しさが残りました。しかし、投手を中心にロースコアで抑えたことで、新人戦の選手にはリーグ戦での勝利への道筋が今まで以上に鮮明に見えたと思います。新体制が始動し、最初に迎えるのは冬。各自が自らの課題克服に挑み、選手としてひと回りふた回り以上成長

して、来春のリーグ戦を迎えたいです。



### 水野 喬夫(1年・外野手・海城)

春、秋共に新人戦に出させて頂き、多くのことを感じました。新人戦だとしても神宮での1回の試合は、百の練習に匹敵する密度があると思います。新人戦ですら通用しなかった自分の実力は、まだリーグ戦のレベルにはほど遠いです。しかし、諦めるつもりはありません。この冬、考え、練習し、2年生の春でリーグ戦に出場します。応援よろしくお願いします。



## この冬に懸ける思い

宮谷 康平（1年・投手・湘南）

実力不足というのが第一の実感です。今季こそは連敗脱出できると期待されていましたが、結局本当の意味で対等な試合はできませんでした。個人の面では、ピンチの場面で踏ん張ることができませんでした。

相手の押せ押せムードの中でいかに自分のピッチングができるか。これが来季に向けての僕の課題です。どんなに打たれても点をとられないピッチャーにならないければ、東大のエースは務まりません。冬はこの悔しさを糧にもう一度体作りから見直し、基本に立ち返って練習をします。そして来季の目標はもちろんただひとつ、勝利です。



佐藤 克哉（1年・内野手・桐蔭学園）

僕は新人戦不出場で終わってしまい、悔しい思いをしました。自分よりも打撃の技術がある人が次々と打ち取られているのを見て、自分の非力さも感じました。しかし相手投手の投球は、直球であればピ

ットを出すのもそれほど難しくなさそうに見えました。もっと経験を積んで学んで、相手バッテリーの配球を読むようになって、あのような投手から打てるようになりたいです。

この冬では、外野の間を抜くような鋭い打球が打てるようになりたいです。いっぱい振り込むつもりです。守備ではどんな球も後ろに逸らさないようにしたいです。



## 編集後記

今回の特集はいかがでしたか。

新人戦では、リーグ戦の出場機会の少ない1・2年生が実際に神宮球場でプレーして他大学のレベルを痛感し、来季に向けて具体的な目標を定める良い機会となりました。

チームは新体制を迎え、新たなスタートを切りました。この冬の間、それぞれが目標に向けて練習を積み重ね、チーム全体として大きく成長できるように、精進して参ります。

今後とも東大野球部をどうぞよろしくお願ひ致します。



## お問い合わせ先

〒113-0023

東京都文京区向ヶ丘1-5-9 一誠寮

TEL&FAX 03(3811)5100

メールアドレス office@tokyo-bbc.net

メルマガについてのご意見、配信停止のご希望等ございましたら上記連絡先までご連絡下さい。

